

科目名称	母性看護学実習	学年学期	単位数	時間数
		第3学年 前期～後期	2	90
担当教員	小池 佐知	授業に関わる 実務経験	☒ 有（助産師） ☐ 無	

【1】授業概要

母性看護学で学んだ知識・技術を臨床の看護実践場面に適用し、理論と実践を結び付けて理解できる能力を養う。また、チームの一員としての役割を学び、保健・医療・福祉との連携・協働の中で看護を実践できる能力を養う。

【2】学習目標

1. 対象の各ライフステージに応じた健康の保持増進のために保健・医療・福祉チームが果たす役割を理解できる。
2. 地域における保健活動の実際を学び、健康に生活するための援助を理解できる。
3. 母性看護学の対象の特徴を理解することができる。
4. 妊婦・産婦・褥婦および新生児に対して、順調な適応を促すための看護援助を理解できる。
5. 退院後の生活環境に適した継続看護を考えることができる。
6. 生命観、母性観を養い、看護の倫理観を深めることができる。
7. 実習を振り返り、自己の課題を明確にするとともに、3施設での学習の統合ができる。

【3】第1看護学科ディプロマ・ポリシーとの関連性

- 1. 人間を理解し、倫理的な態度で看護を実践する力
- 2. あらゆる対象に応じた看護を実践する力
- 3. 地域の特性を看護に生かす力
- 4. 保健・医療・福祉システムにおける連携・協働できる力
- 5. 主体的に学び続ける力

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1～3 週 目	松山市保健所実習 ・保健所の役割 ・保健所の組織や構造の概要 ・保健センターの役割 ・保健師の役割 ・各事業を通じた保健・医療・福祉の連携 [参加する事業] 1歳6か月児健診 3歳児健診 すくすく相談 モグモグ相談 なかよし教室 マタニティー相談会 家庭訪問 高齢者運動支援事業 など 総合周産期母子医療センター・診療所実習 ・妊婦・産婦・褥婦の身体的・心理的・社会的変化の理解と看護実践 1) 妊婦健診 2) 産婦の身体的変化とセルフケアレベルの把握および支援 3) 褥婦のセルフケアレベルの把握と支援 ・新生児の看護 1) 出生直後の観察と看護 2) 早期母児接触 3) 母乳栄養の促進 4) 新生児の生理的特徴の観察 5) 沐浴指導の見学 6) 沐浴の実施 7) 退院指導 8) 母乳育児外来 9) 2週間健診、1か月健診	臨地実習

	・婦人科外来における看護	
--	--------------	--

【5】 評価方法

1. 母性看護学実習評価基準により総合的に評価する。

【6】 教科書

なし

【7】 参考書

森 恵美:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 2 母性看護学各論(第 14 版) 医学書院 2025 (電子版)
 末岡 浩:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 9 女性生殖器(第 15 版) 医学書院 2025 (電子版)
 平澤美恵子 新訂版写真でわかる 母性看護技術アドバンス(初版) 株式会社インターメディカ 2020

【8】 受講生へのメッセージ

3 週間の中で 3 施設(松山市保健所・総合周産期母子医療センター・診療所)をローテーションで交代しながら実習を行います。